

「国語に関する世論調査」におけるいわゆる「コミュニケーション」に関する問い(抜粋)

概要

大きく以下の五つに分類し、報道発表の際に使用した資料(概要版)から一部を抜粋し、掲載する。
 話し方やコミュニケーションについての意識
 外国人とのコミュニケーション
 国語力について
 情報化の中でのコミュニケーション
 敬意表現について

備考： 平成22年度～平成27年度(直近6年)の報道発表資料を掲載。
 全ての設問について、報道発表資料になっているわけではない。
 複数回調査をしている設問の場合、最新の報道発表資料を掲載。
 ～ については、第2回国語課題小委員会(平成28年6月20日)の資料として既出。

話し方やコミュニケーションについての意識

1 初めて会った人と話をする事について、どのように感じるか (23Q7) 「苦手である(計)」は5割台半ばで、4割強の「得意である(計)」を上回る

〔全体〕

初めて会った人と話をする事について、どのように感じるかを尋ねた。

「得意である」と「どちらかと言えば得意である」を選んだ人を合わせた「得意である(計)」は42.9%、「どちらかと言えば苦手である」と「苦手である」を合わせた「苦手である(計)」は55.5%であった。

(数字は%)

得意である(計)		苦手である(計)		分からない
42.9		55.5		1.6
得意である 7.5	どちらかと言えば得意である 35.4	どちらかと言えば苦手である 46.5	苦手である 9.0	

〔年齢別〕

年齢別に見ると、「得意である(計)」の割合は、30代だけ4割を切っている。また、「苦手である(計)」の割合は、30代で6割弱となっており、他の年代より高い。

「苦手である」を選んだ人の割合は16～19歳で20.5%、20代で12.6%と、他の年代に比べて高くなっている。

	得意である	どちらかと言 えば得意である	得意である (計)	どちらかと言 えば苦手である	苦手である	苦手である (計)	分から ない	(数字は%)
16～19歳	6.4	39.7	46.2	33.3	20.5	53.8	-	
20代	8.0	38.3	46.3	40.0	12.6	52.6	1.1	
30代	6.9	32.4	39.4	51.0	8.1	59.1	1.5	
40代	6.5	39.3	45.7	47.2	6.7	54.0	0.3	
50代	9.1	36.6	45.7	47.4	5.8	53.2	1.1	
60歳以上	7.4	33.2	40.6	47.0	9.7	56.7	2.7	

**2 誰かの話を聞いていて、その人の言いたかったことと、
自分の受け取ったこととが食い違っていたという経験があるか、ないか (24Q1)**
6割台半ばの人が「ある(計)」と回答

〔全体・年齢別〕

誰かの話を聞いていて、その人の言いたかったことと、自分の受け取ったこととが食い違っていたという経験があるか、それとも、ないかを尋ねた。

「よくある」と「時々ある」を選んだ人を合わせた「ある(計)」は66.5%、「余りない」と「ない」を合わせた「ない(計)」は33.3%であった。

年齢別に見ると、「ある(計)」の割合は、20代以下で8割前後となっている。また、30~50代では7割前後、60歳以上では、約6割となっている。

(数字は%)

	よくある	時々ある	ある(計)	余りない	ない	ない(計)	分からない
全体	9.2	57.2	66.5	26.8	6.5	33.3	0.2
16~19歳	6.8	74.3	81.1	14.9	4.1	18.9	
20代	12.6	65.1	77.7	20.6	1.7	22.3	
30代	5.8	65.3	71.1	26.1	2.7	28.9	
40代	4.6	64.5	69.1	26.6	4.0	30.6	0.3
50代	10.5	59.8	70.3	24.8	5.0	29.7	
60歳以上	11.0	48.7	59.7	29.8	10.1	39.9	0.4

**3 誰かに話をしていて、自分の言いたかったことが、
相手にうまく伝わらなかったという経験があるか、ないか (24Q2)**
6割以上の人が「ある(計)」と回答

〔全体・年齢別〕

誰かに話をしていて、自分の言いたかったことが、相手にうまく伝わらなかったという経験があるか、それとも、ないかを尋ねた。

「よくある」と「時々ある」を選んだ人を合わせた「ある(計)」は63.4%、「余りない」と「ない」を合わせた「ない(計)」は36.3%であった。

年齢別に見ると、「ある(計)」の割合は、16歳から50代までは、6割台半ばから7割前後となっている。また、60歳以上では、5割台半ばとなっている。

(数字は%)

	よくある	時々ある	ある(計)	余りない	ない	ない(計)	分からない
全体	11.7	51.8	63.4	28.9	7.4	36.3	0.2
16~19歳	18.9	50.0	68.9	27.0	4.1	31.1	
20代	15.4	54.9	70.3	24.6	5.1	29.7	
30代	13.4	57.7	71.1	26.1	2.7	28.9	
40代	7.3	59.3	66.7	29.4	4.0	33.3	
50代	10.5	58.2	68.7	25.4	5.9	31.3	
60歳以上	11.7	44.9	56.6	31.8	11.1	42.9	0.5

4 人とのコミュニケーションにおいて、難しいと感じること (2Q3)

4割の人が「相手との人間関係を作り上げながら伝え合うこと」と回答

〔全体〕

人とのコミュニケーションにおいて、「相手との人間関係を作り上げながら伝え合うこと」と「根拠や理由を明確にして論理的に伝え合うこと」のどちらが難しいと感じるかを尋ねた。

「相手との人間関係を作り上げながら伝え合うこと」と回答した人が4割強、「根拠や理由を明確にして論理的に伝え合うこと」と回答した人が3割台半ばという結果であった。また、「相手や状況によって異なるので、どちらとも言えない」と回答した人が1割台後半であった。

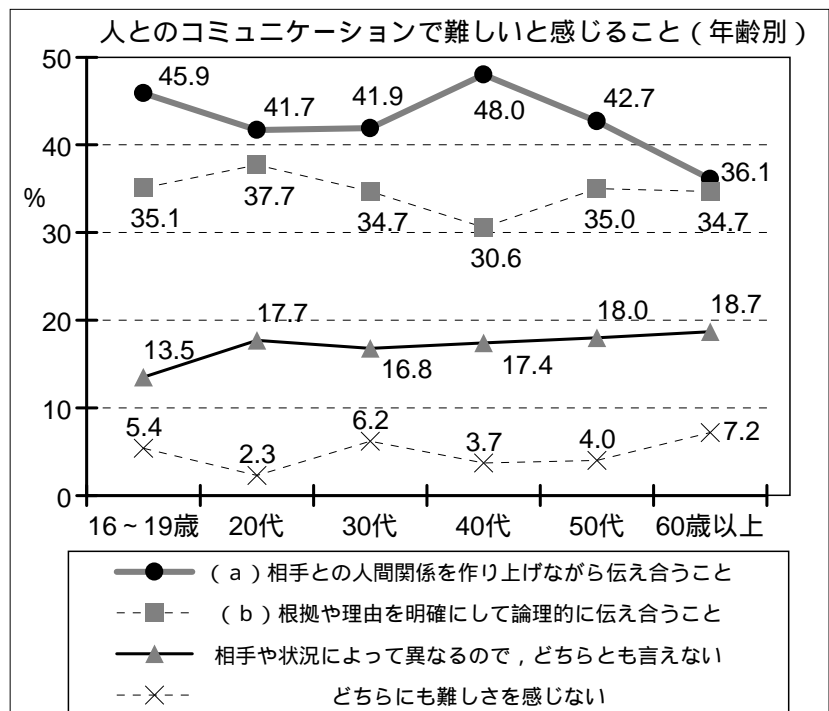
- ・「相手との人間関係を作り上げながら伝え合うこと」の方が難しい…………… 40.5%
- ・「根拠や理由を明確にして論理的に伝え合うこと」の方が難しい…………… 34.4%
- ・相手や状況によって異なるので、どちらとも言えない…………… 17.9%
- ・どちらにも難しさを感じない…………… 5.6%
- ・分からない…………… 1.7%

〔年齢別〕

年齢別に見ると、右のグラフのとおり。全ての年代で「(a)相手との人間関係を作り上げながら伝え合うこと」を難しいと感じる人の割合が高くなっている。特に、40代では4割台後半となっており、他の年代に比べ高い。一方、60歳以上では、3割台半ばとなっており、他の年代に比べ低くなっている。

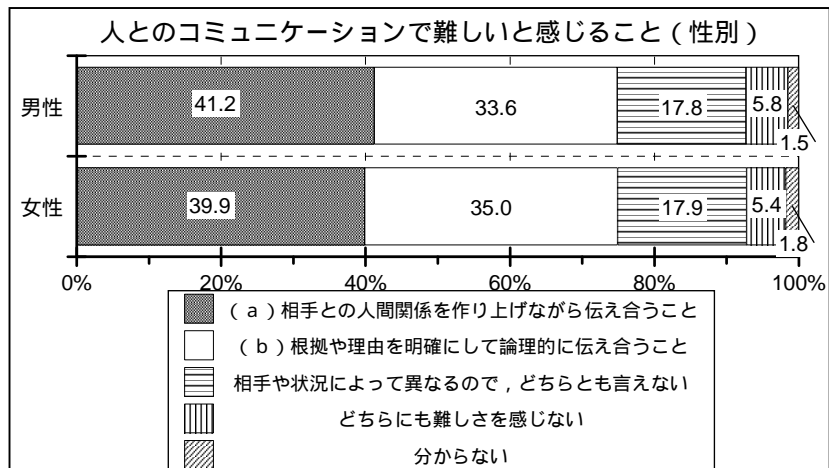
また、「(b)根拠や理由を明確にして論理的に伝え合うこと」を難しいと感じる人の割合は、全ての年代で3割台となっている。

なお、「どちらにも難しさを感じない」を選んだ人の割合は、どの年代でも1割に達していないが、中でも20代では2.3%と、他の年代に比べて低くなっている。



〔性別〕

性別に見ると、右のグラフのとおり。男女間で、大きな差はない。



5 人とのコミュニケーションにおいて、重視すること (24Q4)

6割台半ばの人が「相手との人間関係を作り上げながら伝え合うこと」と回答

〔全体〕

人とのコミュニケーションにおいて、「相手との人間関係を作り上げながら伝え合うこと」と「根拠や理由を明確にして論理的に伝え合うこと」のどちらを重視するかを尋ねた。

「相手との人間関係を作り上げながら伝え合うこと」と回答した人が6割台半ば、「根拠や理由を明確にして論理的に伝え合うこと」と回答した人が1割台半ばという結果であった。また、「相手や状況によって異なるので、どちらか一つには絞れない」と回答した人も1割台半ばであった。

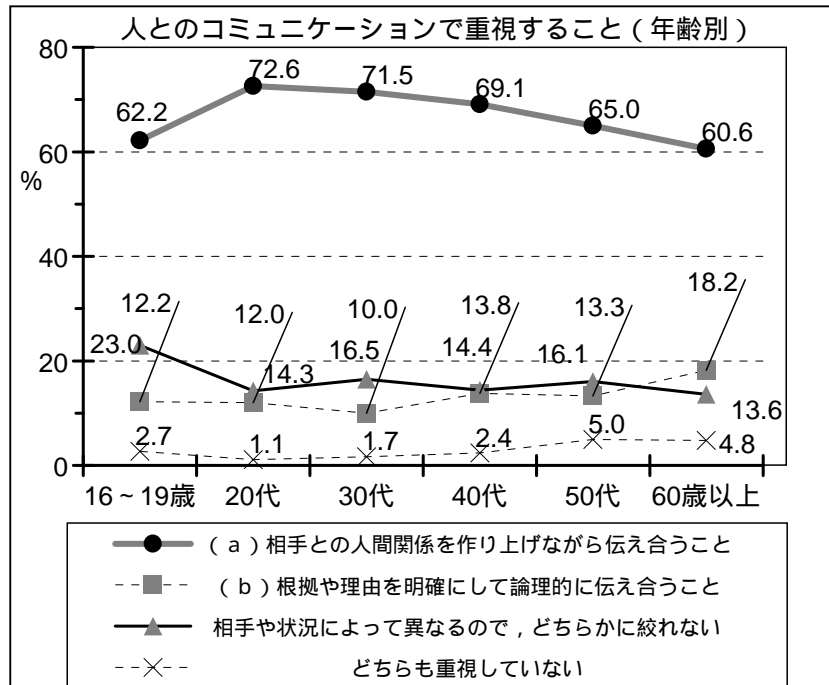
- ・「相手との人間関係を作り上げながら伝え合うこと」の方を重視する…………… 65.1%
- ・「根拠や理由を明確にして論理的に伝え合うこと」の方を重視する…………… 15.0%
- ・相手や状況によって異なるので、どちらか一つには絞れない…………… 14.9%
- ・どちらも重視していない…………… 3.7%
- ・分からない…………… 1.4%

〔年齢別〕

年齢別に見ると、右のグラフのとおり。全ての年代で「(a)相手との人間関係を作り上げながら伝え合うこと」を重視すると答えた人の割合が高くなっている。特に、20代から40代では7割前後となっており、他の年代に比べて高い。

また、「(b)根拠や理由を明確にして論理的に伝え合うこと」を重視していると答えた人の割合はどの年代でも1割台となっている。そのうち、60歳以上では、18.2%となっており、他の年代に比べて高い。

なお「相手や状況によって異なるので、どちらか一つには絞れない」と回答した人の割合は、16～19歳で2割台前半となっており、他の年代に比べて高い。



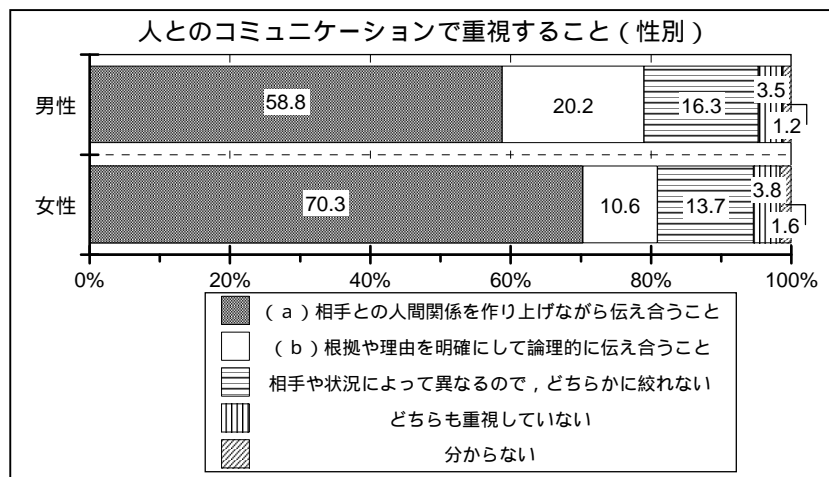
〔性別〕

性別に見ると、右のグラフのとおり。

「(a)相手との人間関係を作り上げながら伝え合うこと」を選んだ人の割合は、女性

(70.3%)の方が男性(58.8%)より12ポイント高い。

一方、「(b)根拠や理由を明確にして論理的に伝え合うこと」を選んだ人の割合は、男性(20.2%)の方が女性(10.6%)より10ポイント高い。



6 誰かと話をするときに、相手から不快感を感じるのはどのようなことか (2Q5)
 男性は「敬語の使い方など言葉遣いに問題がある」、女性は「相手ばかりが話している」が多い

〔全体・性別〕

誰かと話をするときに、相手から不快感を感じるのはどのようなことかを尋ねた（選択肢の中から三つまで選択）。

全体では、「話したり聞いたりするときの態度が悪い」（32.3%）、「話が理解されず会話がかみ合わない」（32.2%）、「相手ばかりが話している」（31.0%）を選んだ人の割合が3割を超え、他に比べて高い。続いて「敬語の使い方など言葉遣いに問題がある」（29.8%）「言葉や態度の裏に、隠された意図を感じる」（28.5%）が3割弱となっている。

性別に見ると、男性で最も割合の高かったのは「敬語の使い方など言葉遣いに問題がある」（33.5%）、女性では「相手ばかりが話している」（33.1%）であった。また、男性の方が女性よりも「話の組立てや流れに問題がある」で8ポイント、「敬語の使い方など言葉遣いに問題がある」で7ポイント高くなっており、女性の方が男性よりも「相手ばかりが話している」と「言葉や態度の裏に、隠された意図を感じる」で5ポイント高くなっている。

	全 体	男 性	女 性
・話したり聞いたりするときの態度が悪い……………	32.3%	32.9%	31.8%
・話が理解されず会話がかみ合わない……………	32.2%	31.4%	32.9%
・相手ばかりが話している……………	31.0%	28.6%	33.1%
・敬語の使い方など言葉遣いに問題がある……………	29.8%	33.5%	26.7%
・言葉や態度の裏に、隠された意図を感じる……………	28.5%	25.9%	30.7%
・話の内容に問題がある……………	21.3%	23.0%	20.0%
・視線を合わせようとしない……………	17.9%	17.1%	18.6%
・話の組立てや流れに問題がある……………	13.7%	18.0%	10.0%
・話す速さに問題がある……………	12.4%	14.5%	10.7%
・声の質や大きさに問題がある……………	10.5%	10.0%	10.9%
・相手が余り話さない……………	9.0%	8.3%	9.6%
・不快に感じることはほとんどない……………	8.5%	6.9%	9.9%

〔年齢別〕

年齢別に見て、年代間の差が比較的大きい5項目について見ると、右のグラフのとおり。

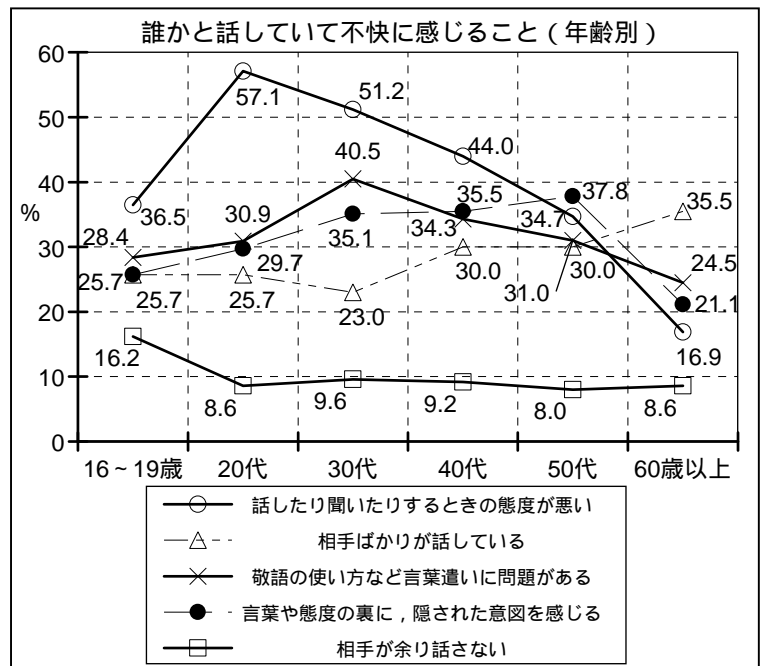
「話したり聞いたりするときの態度が悪い」は、20代から40代で選択した人の割合が4割台半ばから5割台後半と、他の年代と比べて高いが、一方、60歳以上では1割台半ばとなっている。

「相手ばかりが話している」は60歳以上で3割台半ばと、他の年代に比べて高い。

「敬語の使い方など言葉遣いに問題がある」は30代で4割、40代で3割台半ばと、他の年代に比べて高い。

「言葉や態度の裏に、隠された意図を感じる」は、30代から50代で3割台半ばから3割台後半と、他の年代に比べて高いが、一方、60歳以上では2割強となっている。

「相手が余り話さない」は16~19歳で1割台半ばと、他の年代に比べて高い。



7 初めて会った人とでも早く打ち解ける方が、時間が掛かる方(25Q4)

「どちらかと言えば、早く打ち解ける方」が、全ての年代で高い

(数字は%)

どちらかと言えば、早く打ち解ける方	どちらかと言えば、打ち解けるのに時間が掛かる方	どちらとも言えない	分からない
44.3	35.5	20.0	0.2

[全体]

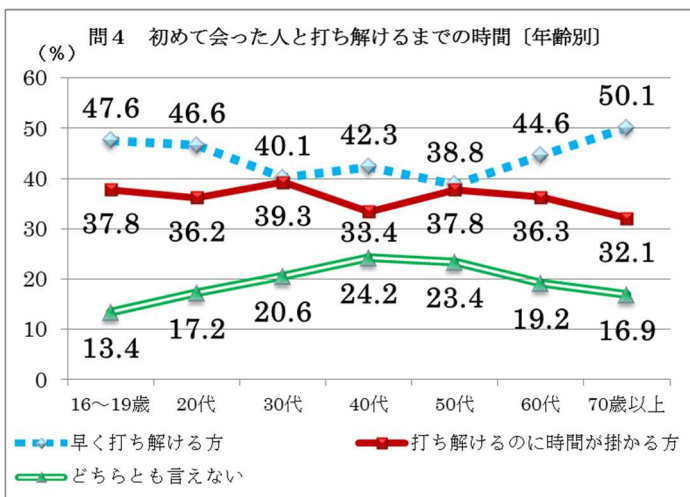
初めて会った人とでも早く打ち解ける方だと思うか、打ち解けるまでに時間が掛かる方だと思うかを尋ねた。

「どちらかと言えば、早く打ち解ける方」の割合が44.3%、「どちらかと言えば、打ち解けるのに時間が掛かる方」の割合が35.5%、「どちらとも言えない」の割合が20.0%となっている。

[年齢別]

年齢別に見ると、「どちらかと言えば、早く打ち解ける方」の割合は、全ての年代で、他の選択肢の割合を上回っている。そのうち、70歳以上で50.1%と最も高く、50代で38.8%と最も低くなっている。

一方、「どちらかと言えば、打ち解けるのに時間が掛かる方」の割合は、全ての年代で3割台となっている。



8 相手から、どのように接してほしいか(25Q5)

同僚や近所の人などに対して、及び、初めて会った人に対して、「余計なことをされたり、立ち入られたくない」と、4割台が回答

(数字は%)

	どちらかと言えば、相手に理解されたい、親しみを持ってもらいたいという気持ち強い	どちらかと言えば、相手に余計なことをされたり、立ち入られたりしたくないという気持ち強い	どちらとも言えない	分からない
親しい友人に対して	75.6	13.1	11.0	0.3
同僚や近所の人などに対して	38.0	42.8	19.0	0.2
初めて会った人に対して	20.3	45.8	33.3	0.6

[全体]

人との関係において、相手に理解されたい、親しみを持ってもらいたいという気持ちと、相手に余計なことをされたり、立ち入られたりしたくないという気持ちとのどちらを強く感じる方だと思うか、「親しい友人に対して」、「同僚や近所の人に対して」、「初めて会った人に対して」のそれぞれについて尋ねた。

「親しい友人に対して」では、「どちらかと言えば、相手に理解されたい、

親しみを持ってもらいたいという気持ち強い」の割合は75.6%となっている。

「同僚や近所の人などに対して」及び「初めて会った人に対して」では、「どちらかと言えば、相手に余計なことをされたり、立ち入られたりしたくないという気持ち強い」の割合が、共に4割台となっている。

9 相手に対して、どのような気持ちで接するか (25Q6)

同僚や近所の人などに対して、及び、初めて会った人に対して、「余計なことをしたり、立ち入ったりして不快に思われたくない」と、約5割が回答

(数字は%) [全体]

	どちらかと言えば、相手を理解し、相手と親しくなりたいという気持ち強い	どちらかと言えば、相手に余計なことをしたり、立ち入ったりして不快に思われたくないという気持ち強い	どちらとも言えない	分からない
親しい友人に対して	75.0	16.0	8.7	0.3
同僚や近所の人などに対して	31.9	50.9	17.0	0.2
初めて会った人に対して	16.9	49.0	33.4	0.6

人との関係において 相手を理解し、相手と親しくなりたいという気持ちと、相手に余計なことをしたり、立ち入ったりして不快に思われたくないという気持ちとのどちらを強く感じる方だと思うか、「親しい友人に対して」、「同僚や近所の人に対して」、「初めて会った人に対して」のそれぞれについて尋ねた。

「親しい友人に対して」は、「どちらかと言えば、相手を理解し、相手と親

しくなりたいという気持ち強い」の割合が75.0%となっている。

「同僚や近所の人などに対して」及び「初めて会った人に対して」は「どちらかと言えば、相手に余計なことをしたり、立ち入ったりして不快に思われたくないという気持ち強い」の割合が、共に約5割となっている。

10 人間関係を築くために、相手の個人的なことを知る必要があるか (25Q7)

親しい友人に対して、「知る必要がある」と30代以下で7割弱から7割台半ばが回答

(数字は%) [全体]

	どちらかと言えば、相手の個人的なことをよく知ることが必要だと思う	どちらかと言えば、相手の個人的なことは知らなくてもよいと思う	どちらとも言えない	分からない
親しい友人に対して	58.1	27.1	14.4	0.3
同僚や近所の人などに対して	21.3	59.1	19.2	0.4
初めて会った人に対して	9.0	59.9	30.5	0.6

気持ちの良い人間関係を築くには、相手の個人的なことをよく知ることが必要だと思うか、相手の個人的なことは知らなくてもよいと思うか、「親しい友人に対して」、「同僚や近所の人に対して」、「初めて会った人に対して」のそれぞれについて尋ねた。

「親しい友人に対して」では、「どちらかと言えば、相手の個人的なことは知らなくてもよいと思う」の割合は27.1%と

なっている。

一方、「同僚や近所の人などに対して」及び「初めて会った人に対して」では、「どちらかと言えば、相手の個人的なことは知らなくてもよいと思う」の割合は、共に6割弱となっている。

1 1 人と接する際、相手や場面に合わせて態度を変えようとする方が (25Q8)

「相手や場面に合わせて態度を変える方」と、20代以下で6割台が回答

(数字は%)

どちらかと言えば、 相手や場面に合わせて態度 を変えようとする方	どちらかと言えば、 いつも同じような態度 でいようとする方	どちらとも言えない	分から ない
40.8	48.4	10.6	0.2

〔全体〕

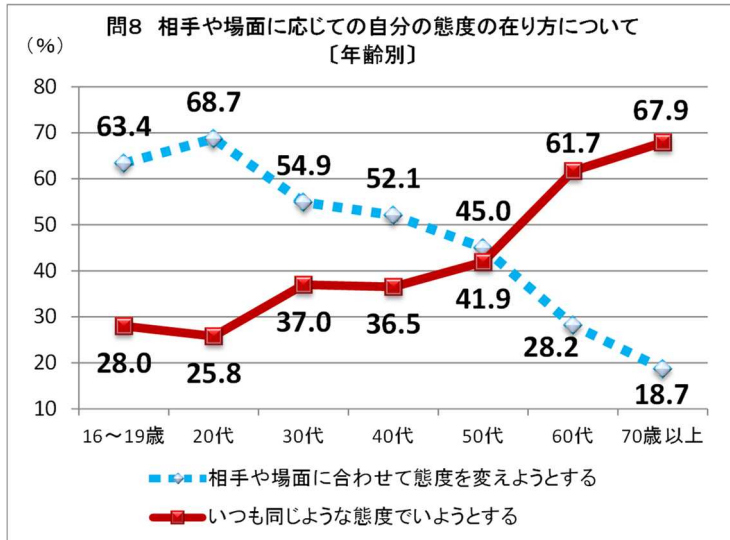
人と接するに当たって、相手や場面に合わせて態度を変えようとする方が、いつも同じ態度でいようとする方を尋ねた。

「どちらかと言えば、いつも同じような態度でいようとする方」(48.4%)の割合が、「どちらかと言えば、相手や場面に合わせて態度を変えようとする方」(40.8%)を、8ポイント上回っている。

〔年齢別〕

年齢別に見ると、「どちらかと言えば、相手や場面に合わせて態度を変えようとする方」の割合は、年代が下がるほど高くなる傾向が見られ、20代以下で6割台となっている。

一方、「どちらかと言えば、いつも同じような態度でいようとする方」の割合は、年代が上がるほど高くなる傾向が見られ、60代以上で6割台となっている。



1 2 相手や場面に合わせて態度を変える人と、同じ態度でいる人のどちらが好ましいか (25Q9)

「いつも同じような態度でいる方」が、年齢が上がるほど高くなる傾向

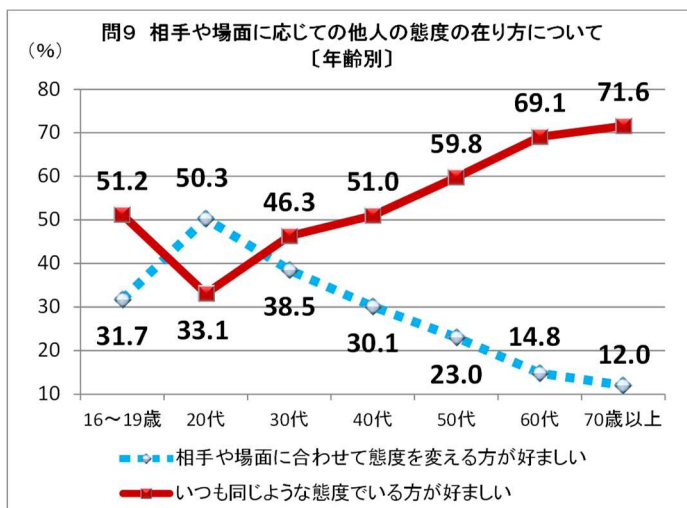
(数字は%)

どちらかと言えば、 相手や場面に合わせて 態度を変える方	どちらかと言えば、 いつも同じような態度 でいる方	どちらとも言えない	分から ない
24.6	58.6	16.5	0.3

〔全体〕

ほかの人が相手や場面に合わせて態度を変えるのと、相手や場面に関係なくいつも同じような態度でいるのとでは、どちらを好ましいと感じるかを探した。

「どちらかと言えば、いつも同じような態度でいる方」(58.6%)の割合が、「どちらかと言えば、相手や場面に合わせて態度を変える方」(24.6%)を、34ポイント上回っている。



〔年齢別〕

年齢別に見ると、「どちらかと言えば、相手や場面に合わせて態度を変える方」の割合は、20代で50.3%と最も高く、20代以降では年代が上がるにつれて割合が低くなり、70歳以上で12.0%となっている。

一方、「どちらかと言えば、いつも同じような態度でいる方」の割合は20代で33.1%と最も低く、20代以降では年代が上がるにつれて割合が高くなり、60代以上で約7割となっている。

外国人とのコミュニケーション

13 日本に来て間もない外国人と日本語で会話をするとき、どのような配慮が必要か (22Q19) 6割前後の人が「ゆっくりと話すように心掛ける」「なるべく簡単な言葉を選ぶ」を選択

〔全体〕

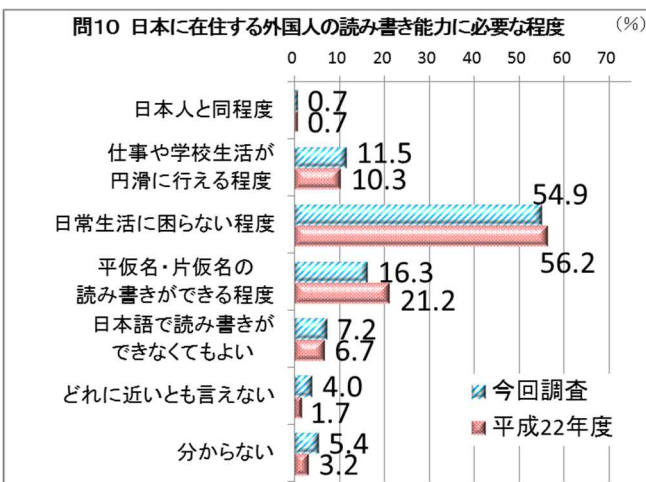
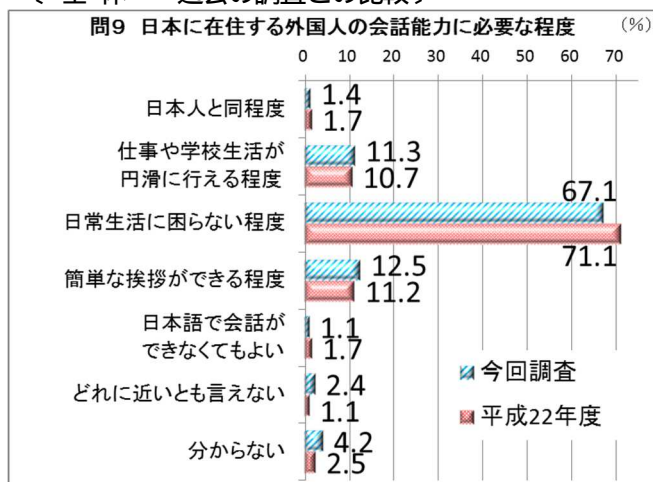
日本に来て、間もない外国人と日本語で会話をするとしたら、どのような配慮をする必要があると思うかを尋ねた（当てはまるものは全て選択）。

「ゆっくりと話すように心掛ける」（61.2%）と答えた人の割合が最も高く、以下、「なるべく簡単な言葉を選ぶ」（57.8%）、「必要に応じて、絵や記号を使ったり、身振り・手振りを交えて話す」（48.8%）の順となっている。

・ゆっくりと話すように心掛ける	61.2%
・なるべく簡単な言葉を選ぶ	57.8%
・必要に応じて、絵や記号を使ったり、 身振り・手振りを交えて話す	48.8%
・はっきりと発音するように心掛ける	34.5%
・必要に応じて英語を交えて話す	31.3%
・なるべく短い言葉で話す	30.2%
・相手がよく理解できるまで繰り返し話す	29.4%
・必要に応じてその外国人の母語を交えて話す	6.8%
・特に配慮する必要はない	3.1%

14 日本に在住する外国人は、どの程度日本語の会話ができるか、 また、どの程度日本語の読み書きができるか (22Q20・Q21, 20Q9・Q10) 「日常生活に困らない程度」が、それぞれ最も高い

〔全体・過去の調査との比較〕



問9では、日本に住んでいる外国人はどの程度日本語の会話ができるか、問10では、日本に住んでいる外国人はどの程度日本語の読み書きができるかを尋ねた。

「日常生活に困らない程度」が、会話能力については67.1%、読み書き能力については54.9%と、それぞれ最も高くなっている。

過去の調査結果（平成22年度）と比較すると、読み書き能力について「平仮名・片仮名の読み書きができる程度」は5ポイント減少しているが、「仕事や学校生活が円滑に行える程度」は1ポイント増加している。また、「どれに近いとも言えない」、「分からない」は、会話能力についても読み書き能力についても、増加している。

国語力について

15 日本人の日本語能力が低下しているという意見について、どう思うか（ Q9, ②3Q4）
 「低下していると思う（計）」と考える人が、「読む力」「書く力」「話す力」「聞く力」の全てで多数

〔全体・過去の調査との比較〕

最近、日本人の日本語能力が低下しているという意見があるが、そのことについてそう思うか、それともそう思わないかを「読む力」「書く力」「話す力」「聞く力」のそれぞれについて尋ねた。

「低下していると思う（計）」は、「書く力」で87.0%、「読む力」で78.4%と特に高く、また、「話す力」「聞く力」もそれぞれ6割以上となっている。

過去の調査結果（平成13年度調査）と比較すると、「書く力」を除く全ての力で「低下していると思う（計）」の割合が増加しており、中でも「読む力」は10ポイント増となっている。

（1）読む力

（数字は%）

低下していると思う（計）		変わっていないと思う	むしろ向上していると思う	分からない
78.4 【68.8】				
非常に低下していると思う 20.2 【17.6】	やや低下していると思う 58.2 【51.2】	16.6 【25.4】	1.3 【1.4】	3.7 【4.4】

（2）書く力

低下していると思う（計）		変わっていないと思う	むしろ向上していると思う	分からない
87.0 【88.1】				
非常に低下していると思う 36.8 【37.5】	やや低下していると思う 50.2 【50.6】	8.9 【7.7】	1.0 【0.6】	3.1 【3.6】

（3）話す力

低下していると思う（計）		変わっていないと思う	むしろ向上していると思う	分からない
69.9 【59.2】				
非常に低下していると思う 19.5 【16.7】	やや低下していると思う 50.5 【42.5】	23.9 【33.1】	3.2 【3.9】	2.9 【3.9】

（4）聞く力

低下していると思う（計）		変わっていないと思う	むしろ向上していると思う	分からない
62.1 【57.0】				
非常に低下していると思う 13.2 【14.2】	やや低下していると思う 48.8 【42.8】	33.1 【35.9】	1.8 【2.9】	3.1 【4.2】

【 】内は平成13年度調査

16 社会全般の国語に関わる知識や能力には、どのような課題があるか（ Q10, Q9, ㊸Q9）
「敬語等の知識」を挙げた人の割合が最も高い

〔全体・過去の調査との比較〕

国語に関わる知識や能力について、社会全般においてどのような点に課題があると思うかを尋ねた（選択肢の中から三つまで回答）。結果は以下のとおり。参考に、過去の調査結果（平成14, 19年度調査）を併せて示した。（ただし、平成14, 19年度は「日本人の国語力について、社会全般においてどのような点に課題があると思うか」という言い方で尋ねた。）

課題として「敬語等の知識」を挙げた人の割合が最も高く3割台半ばであった。続いて、「説明したり発表したりする能力」「他人の話を正確に聞く力」「考えをまとめ文章を構成する能力」「相手の立場や場面を認識する能力」が2割台半ばで続いている。

	平成24年度調査	平成19年度調査	平成14年度調査
・敬語等の知識	35.6%	42.1%	35.3%
・説明したり発表したりする能力	26.6%	29.7%	33.1%
・他人の話を正確に聞く力	24.8%	36.8%	(選択肢なし)
・考えをまとめ文章を構成する能力	24.1%	22.7%	36.0%
・相手の立場や場面を認識する能力	23.8%	31.6%	11.5%
・漢字や仮名遣い等の文字や表記の知識	22.3%	28.0%	29.0%

17 自分自身の国語に関わる知識や能力には、どのような課題があるか（ Q11, Q10, ㊸Q10）
社会で求められる実務能力を重視する傾向

〔全体・過去の調査との比較〕

国語に関わる知識や能力について、回答者自身は、どのような点で自信を持ってないかを尋ねた（選択肢の中から三つまで回答）。結果は以下のとおり。参考に、過去の調査結果（平成14, 19年度調査）を併せて示した。（ただし、平成14, 19年度は「日本人の国語力について、あなた自身は、どのような点で自信を持ってないか」という言い方で尋ねた。）

「説明したり発表したりする能力」を挙げた人の割合が最も高く3割弱、続いて「考えをまとめ文章を構成する能力」が2割台後半で続いている。主に、社会で求められる実務的な能力を自身の課題として挙げる傾向があり、このことは過去の調査から変わっていない。

	平成24年度調査	平成19年度調査	平成14年度調査
・説明したり発表したりする能力	29.6%	32.5%	30.6%
・考えをまとめ文章を構成する能力	27.8%	29.8%	36.1%
・漢字や仮名遣い等の文字や表記の知識	19.2%	29.1%	27.4%
・敬語等の知識	18.3%	25.6%	21.9%
・論理的に考える能力	17.6%	17.7%	19.0%
・分析して要点をつかむ能力	17.6%	15.5%	17.0%

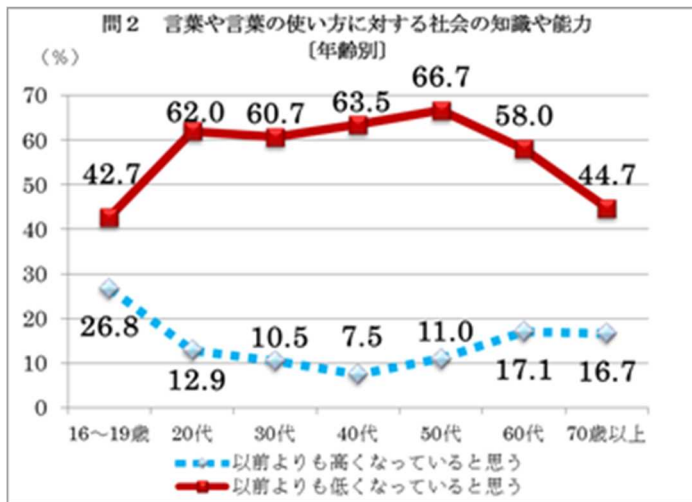
18 言葉や言葉の使い方に関する社会全体の知識や能力は、どうなっていると思うか (25Q2)
 「以前よりも低くなっていると思う」が、20代~50代で、6割以上

(数字は%) [全体]

以前よりも高くなっていると思う	以前よりも低くなっていると思う	以前と変わらないと思う	分からない
13.7	57.3	25.0	3.9

言葉や言葉の使い方に関する社会全体の知識や能力が、以前よりも高くなっていると思うか、低くなっていると思うか、以前と変わらないと思うかを尋ねた。

「以前よりも低くなっていると思う」(57.3%)の割合が、「以前よりも高くなっていると思う」(13.7%)を44ポイント上回っている。「以前と変わらないと思う」の割合は25.0%となっている。



[年齢別]

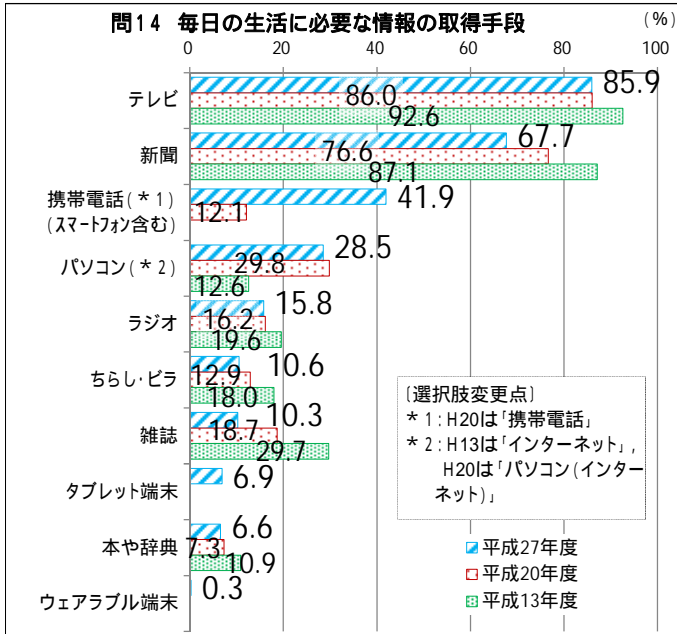
年齢別に見ると、「以前よりも低くなっていると思う」の割合は、20代~50代で6割台となっている。また、「以前よりも高くなっていると思う」の割合は、同じく20代~50代で1割前後となっている。

一方、16歳~19歳では「以前よりも高くなっていると思う」(26.8%)の割合が他の年代より高く、2割台半ばとなっている。

情報化の中でのコミュニケーション

19 毎日の生活に必要な情報を何から得ているか (27Q14)

「携帯電話(スマートフォン含む)」が大きく増加, 紙媒体(新聞, 雑誌等)は減少傾向



〔全体・過去の調査との比較〕

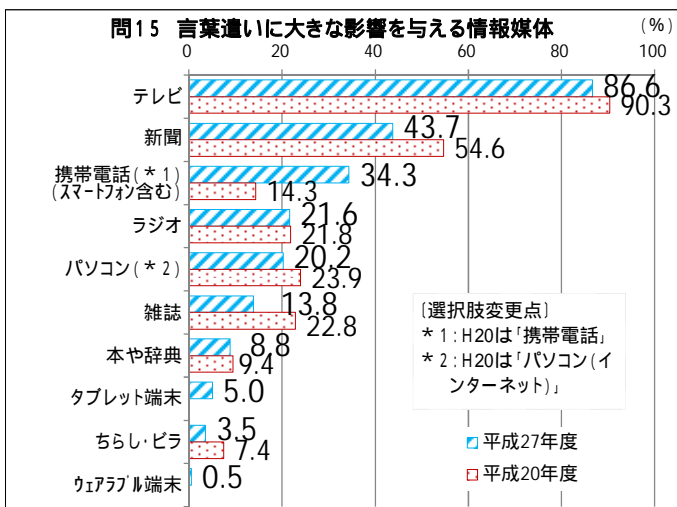
毎日の生活に必要な情報を何から得ているか, 利用することの多いものを尋ねた(選択肢の中から三つまで回答)

「テレビ」が85.9%と最も高く, 次いで「新聞」(67.7%), 「携帯電話(スマートフォン含む)」(41.9%), 「パソコン」(28.5%)となっている。

過去の調査結果(平成13, 20年度)と比較すると, 「新聞」, 「ちらし・ピラ」, 「雑誌」, 「本や辞典」といった紙媒体の情報源は減少傾向にあり, 「携帯電話(スマートフォン含む)」は平成20年度調査から今回調査で増加している。

20 言葉や言葉の使い方大きな影響を与えるのは何だと思うか (27Q15)

「携帯電話(スマートフォン含む)」が平成20年度調査から20ポイント増の34.3%



〔全体・過去の調査との比較〕

情報の伝達に使用されるもののうち, 言葉や言葉の使い方大きな影響を与えると思うものを尋ねた(選択肢の中から三つまで回答)

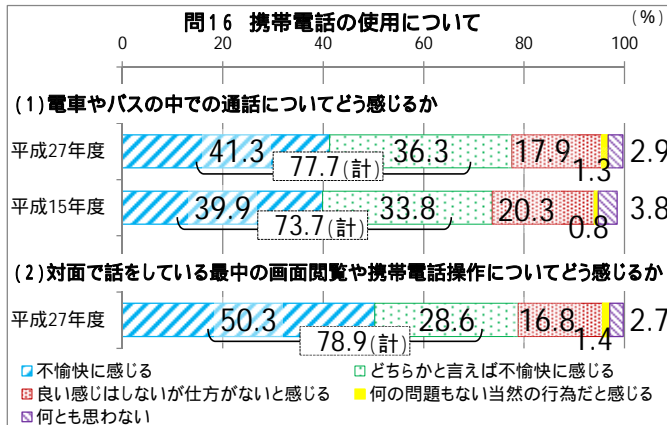
「テレビ」が86.6%と最も高く, 次いで, 「新聞」(43.7%), 「携帯電話(スマートフォン含む)」(34.3%)となっている。

過去の調査結果(平成20年度)と比較すると, 「新聞」, 「雑誌」, 「本や辞典」, 「ちらし・ピラ」は減少し, 「携帯電話(スマートフォン含む)」は増加した。

2.1 次の各場面での携帯電話（スマートフォン含む）の使用についてどう感じるか（⑦Q16）

(1) 電車やバスの中での通話について、「不愉快に感じる(計)」は4ポイント増加し7割後半、

(2) 対面で話をしている最中の画面閲覧、携帯電話操作について、「仕方がない」は40代以下で2割以上

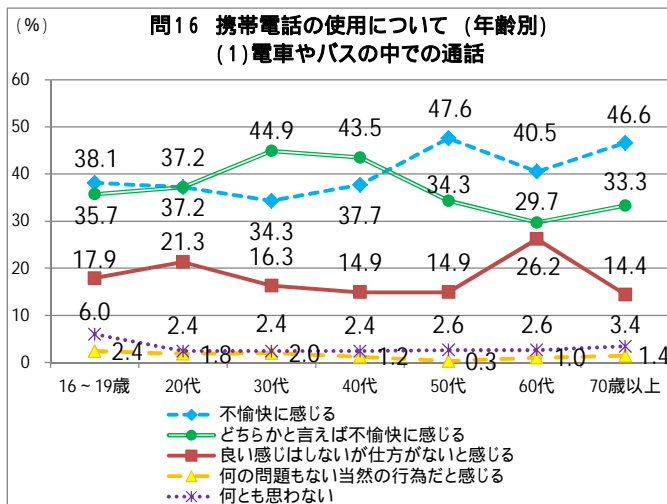


〔全体・過去の調査との比較〕

「(1) 電車やバスの中で携帯電話（スマートフォン含む）を使って話をしている人がいる場合」、「(2) 対面で話をしている最中に携帯電話（スマートフォン含む）の画面を見たり、操作をしたりしている場合」について、どのように感じるかをそれぞれ尋ねた。

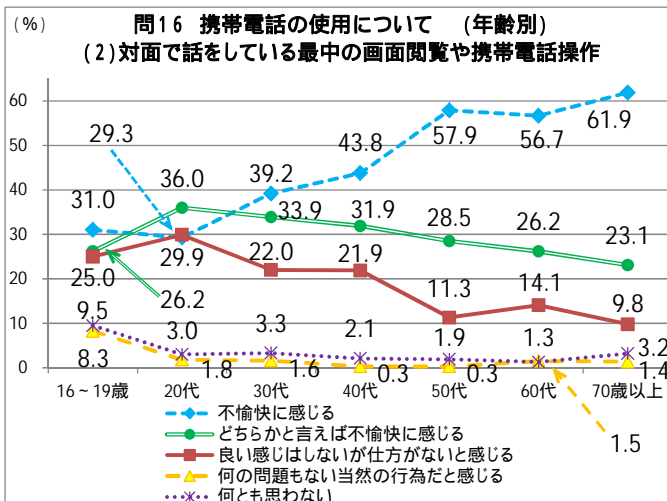
「不愉快に感じる」は、(1)が41.3%、(2)が50.3%となっている。

過去の調査結果（平成15年度）と比較すると、(1)は、「不愉快に感じる(計)」が、4ポイント増加し77.7%となっている。



〔年齢別〕

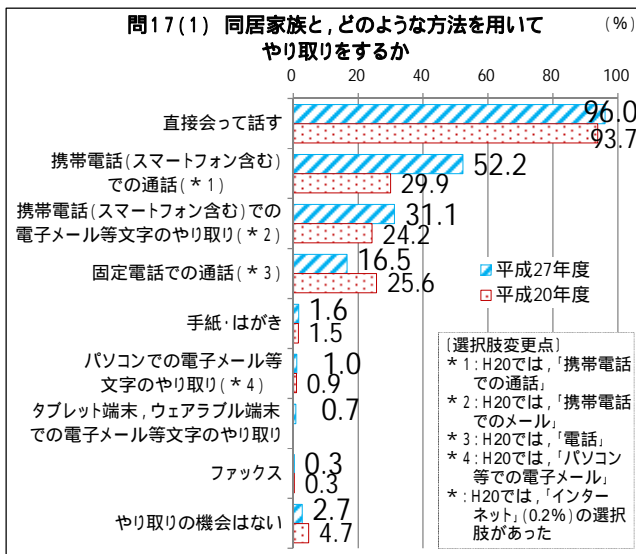
年齢別に見ると(1)では、「不愉快に感じる」が50代以上で4割台、40代以下で3割台となっている。「良い感じはしないが仕方がないと感じる」は、60代で他の年代より高く26.2%となっている。



年齢別に見ると(2)では、「不愉快に感じる」が20代で29.3%と最も低く、20代以降、年代が上がるに従って高くなる傾向にある。「良い感じはしないが仕方がないと感じる」は、40代以下で50代以上より高く2割台となっている。「何の問題もない当然の行為だと感じる」及び「何とも思わない」は、16~19歳で他の年代より高く1割弱となっている。

2.2 相手とどのような方法を用いてやり取りをするか (⑦Q17)

どんな相手に対しても「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」は増加し、「固定電話での通話」は減少



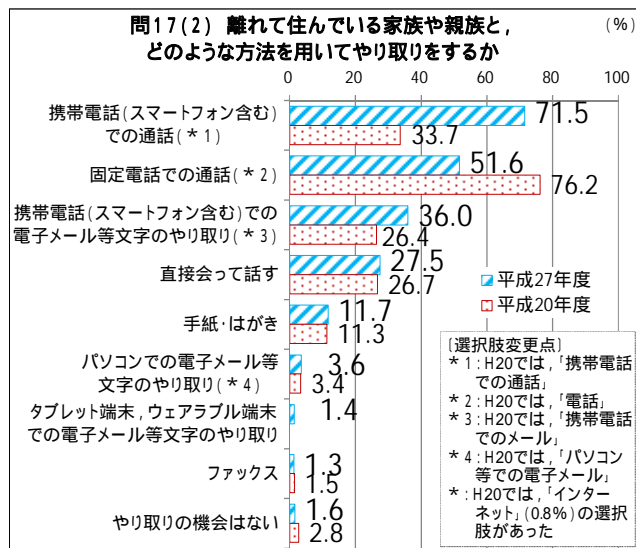
(1) 同居している家族や親族

〔全体・過去の調査との比較〕

同居している家族や親族とやり取りをするとき、どのような方法を用いているかを尋ねた(選択肢の中から三つまで回答)

「直接会って話す」が96.0%と最も高く、次いで「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」(52.2%)、「携帯電話(スマートフォン含む)での電子メール等文字のやり取り」(31.1%)となっている。

過去の調査結果(平成20年度)と比較すると、「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」、「携帯電話(スマートフォン含む)での電子メール等文字のやり取り」は増加し、「固定電話での通話」は減少している。



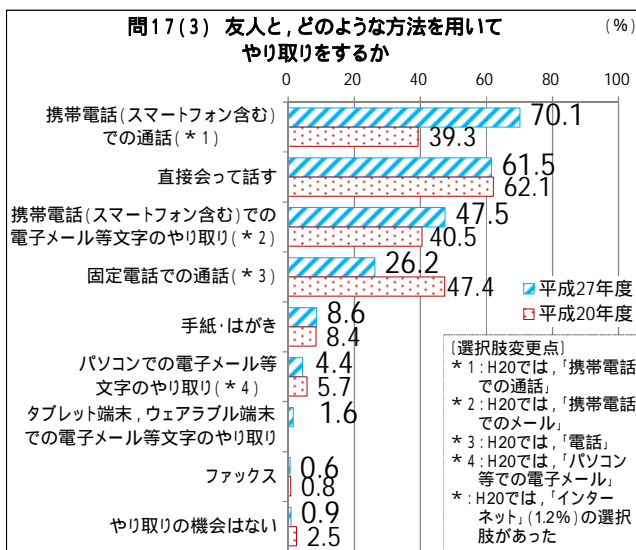
(2) 離れて住んでいる家族や親族

〔全体・過去の調査との比較〕

離れて住んでいる家族や親族とやり取りをするとき、どのような方法を用いているかを尋ねた(選択肢の中から三つまで回答)

「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」が71.5%と最も高く、次いで「固定電話での通話」(51.6%)となっている。

過去の調査結果(平成20年度)と比較すると、「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」、「携帯電話(スマートフォン含む)での電子メール等文字のやり取り」は増加し、「固定電話での通話」は減少している。



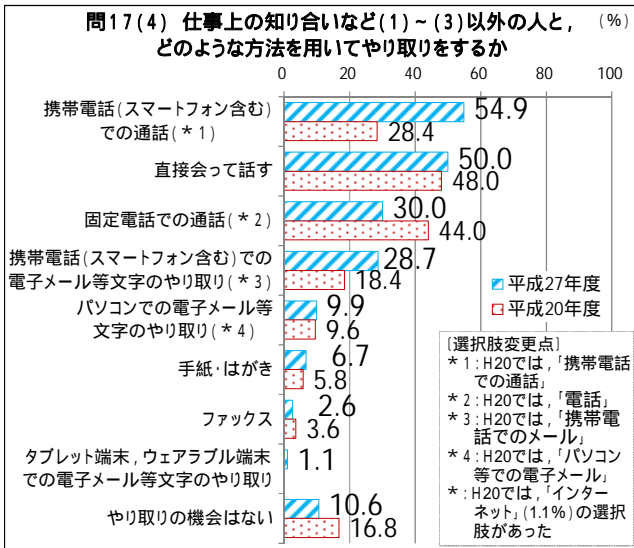
(3) 友人

〔全体・過去の調査との比較〕

友人とやり取りをするとき、どのような方法を用いているかを尋ねた(選択肢の中から三つまで回答)

「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」が70.1%と最も高く、次いで「直接会って話す」(61.5%)となっている。

過去の調査結果(平成20年度)と比較すると、「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」、「携帯電話(スマートフォン含む)での電子メール等文字のやり取り」は増加し、「固定電話での通話」は減少している。



(4) 仕事上の知り合いなど、(1)~(3)以外の人〔全体・過去の調査との比較〕

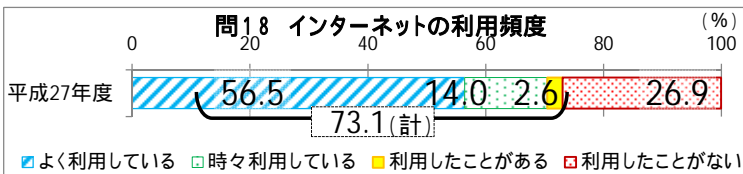
仕事上の知り合いなど、(1)~(3)以外の人とやり取りをするとき、どのような方法を用いているかを尋ねた(選択肢の中から三つまで回答)。

「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」が54.9%と最も高く、次いで、「直接会って話す」(50.0%)、「固定電話での通話」(30.0%)、「携帯電話(スマートフォン含む)での電子メール等文字のやり取り」(28.7%)となっている。

過去の調査結果(平成20年度)と比較すると、「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」、「携帯電話(スマートフォン含む)での電子メール等文字のやり取り」は増加し、「固定電話での通話」は減少している。

2.3 インターネットを利用することがあるか (Q18)

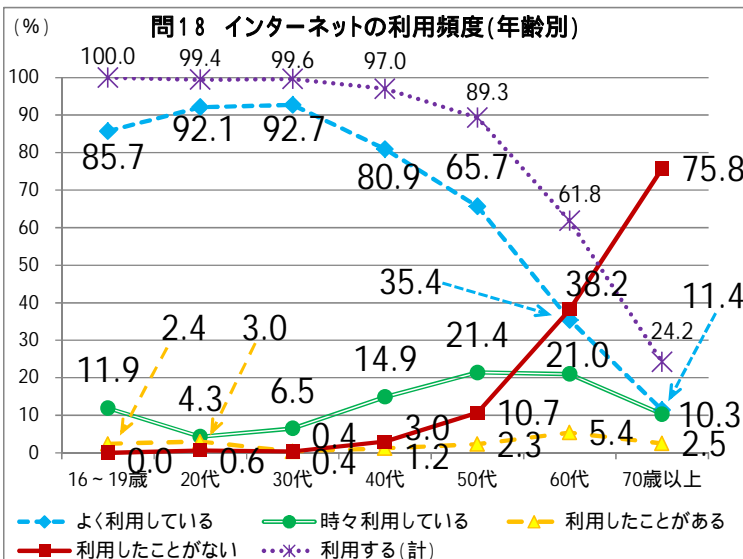
「利用する(計)」が、40代以下で97%以上、「利用したことがない」が、70歳以上で75.8%



〔全体・過去の調査との比較〕

ふだん、パソコン・携帯電話(スマートフォン)・その他の電子機器などを通して、インターネットを利用することがあるかを尋ねた。

「よく利用している」(56.5%)と「時々利用している」(14.0%)と「利用したことがある」(2.6%)を合わせた「利用する(計)」は73.1%となっている。



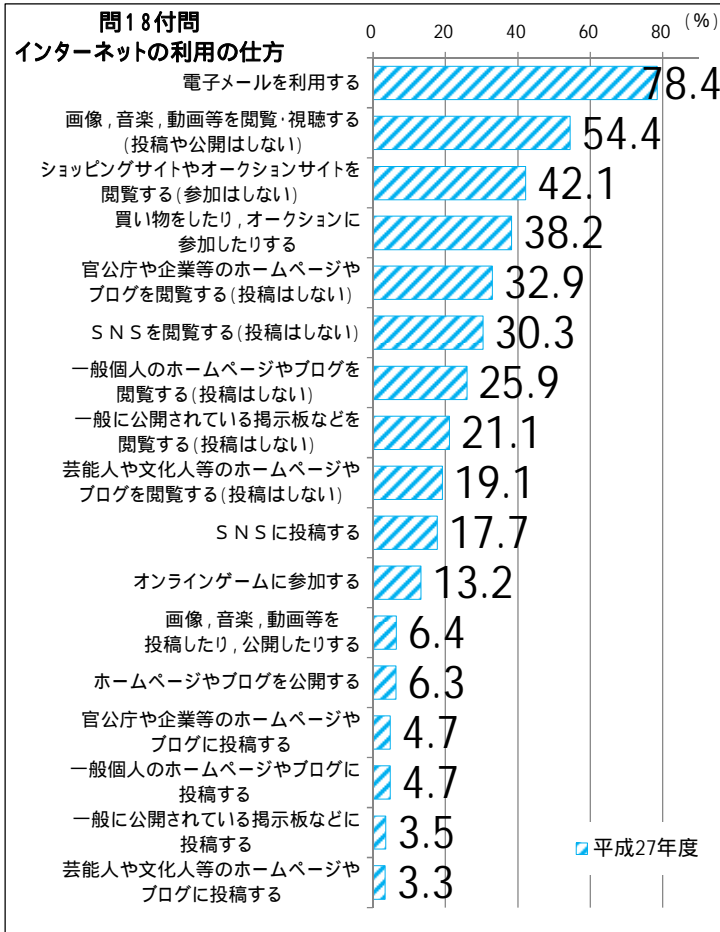
〔年齢別〕

年齢別に見ると、「利用する(計)」は、16~19歳で100%となっており、年代が上がるに従って低くなる傾向があり、60代で61.8%、70歳以上で24.2%となっている。一方、「利用したことがない」は年代が上がるに従って高くなる傾向があり、70歳以上(75.8%)で「利用する(計)」を52ポイント上回っている。

(SQ は、付問のことを指す。)

2.4 どのようにインターネットを利用するか (27Q18SQ)

電子メールを除き、双方向的な利用(投稿や公開をする)は少ない



〔全体〕

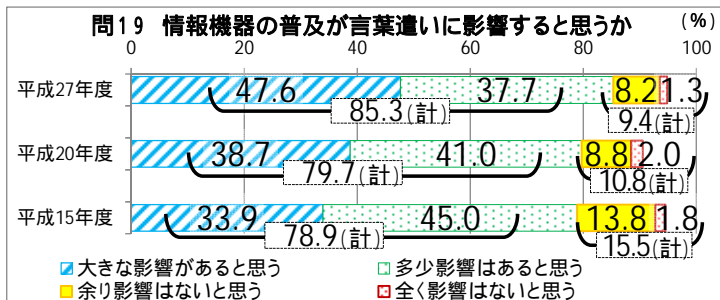
ふだん、インターネットを「利用する(計)」と答えた人(全体の73.1%)に、どのようにインターネットを利用するかを尋ねた(選択肢の中から全て回答)。

「電子メールを利用する」が78.4%と最も高く、次いで「画像、音楽、動画等を閲覧・視聴する(投稿や公開はしない)」(54.4%)、「ショッピングサイトや、オークションサイトを閲覧する(参加はしない)」(42.1%)となっている。

「投稿する」という選択肢の中では、「SNSに投稿する」が17.7%と最も高く、次いで「オンラインゲームに参加する」(13.2%)、「画像、音楽、動画等を投稿したり、公開したりする」(6.4%)となっている。

2.5 情報機器の普及によって、言葉や言葉の使い方が影響を受けると思うか (27Q19)

「影響はあると思う」と85%以上が回答



〔全体・過去の調査との比較〕

パソコンや携帯電話(スマートフォン含む)などの情報機器の普及によって、言葉や言葉の使い方が影響を受けると思うかを尋ねた。

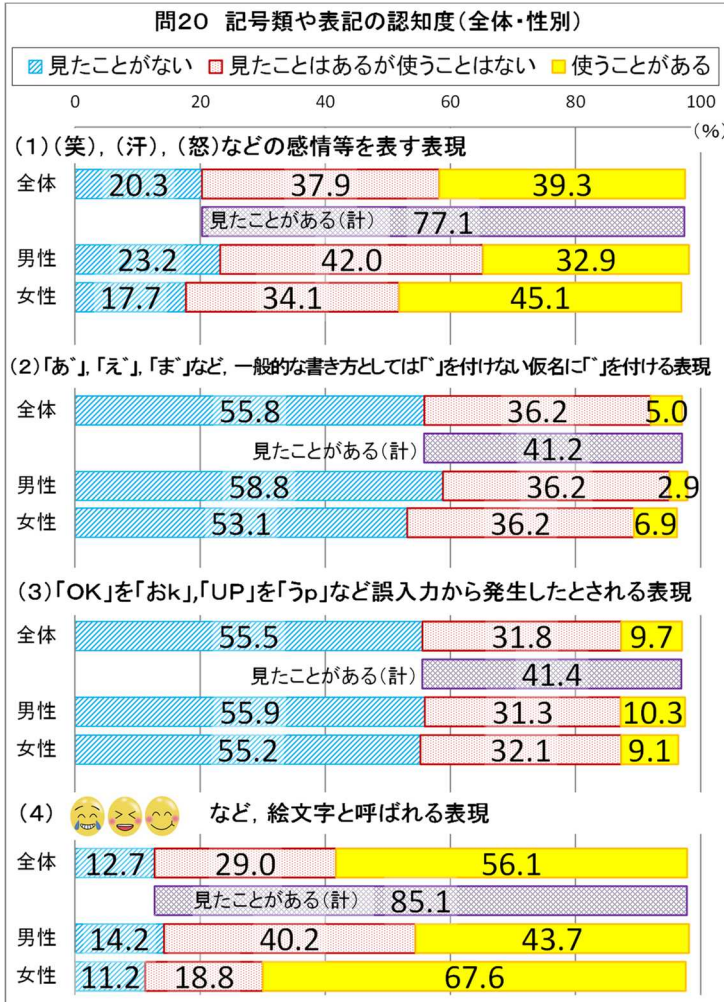
「大きな影響があると思う」(47.6%)と「多少影響があると思う」(37.7%)を合わせた「影響はあると思う(計)」は85.3%となっている。

過去の調査結果(平成15、20年度)と比較

すると、「影響はあると思う(計)」は平成20年度調査から今回調査で6ポイント増加している。

2.6 次に挙げるような記号類や表記を用いた表現を見たことがあるか (Q20)

「見たことがある(計)」は、「😄😅😆」などが85.1%、「(笑),(汗),(怒)など」が77.1%、一方、「おk」、「うp」などは41.4%、「あ」、「え」、「ま」などは41.2%となっている



〔全体・性別〕

(1) (笑), (汗), (怒)などの感情を表す表現

(笑), (汗), (怒)などの感情等を表す表現を見たことがあるか、また、使ったことがあるかを尋ねた。

「使うことがある」が39.3%と最も高く、次いで、「見たことはあるが使うことはない」(37.9%)となっている。

性別に見ると、「使うことがある」は女性の方が12ポイント高いが、「見たことはあるが使うことはない」は男性の方が8ポイント高くなっている。

(2) 「あ」「え」「ま」など、一般的な書き方としては「`」(濁点を付けない仮名に「`」(濁点を付ける表現

「あ」「え」「ま」など、一般的な書き方としては「`」(濁点を付けない仮名に「`」(濁点を付ける表現を見たことがあるか、また、使ったことがあるかを尋ねた。

「見たことがない」が55.8%と最も高くなっている。

性別に見ると、「見たことがない」は男性の方が6ポイント高くなっている。

(3) 「OK」を「おk」や「おk」、「UP」を「うp」など、誤入力から発生したとされる表現

「OK」を「おk」や「おk」、「UP」を

「うp」など、誤入力から発生したとされる表現を見たことがあるか、また、使ったことがあるかを尋ねた。

「見たことがない」が55.5%と最も高くなっている。

性別に見ると、余り変化は見られない。

(4) 😄😅😆 など、絵文字と呼ばれる表現

😄😅😆 など、絵文字と呼ばれる表現を見たことがあるか、また使ったことがあるかを尋ねた。

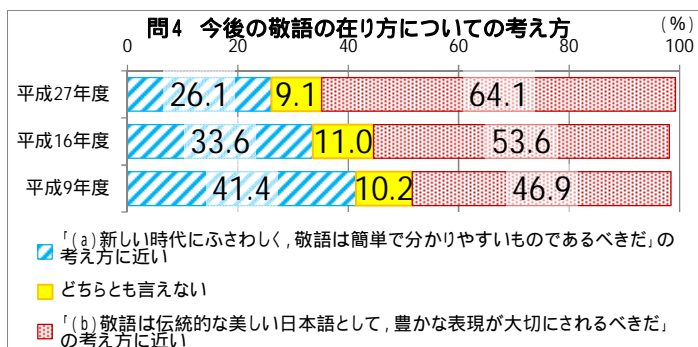
「使うことがある」(56.1%)と「見たことはあるが使うことはない」(29.0%)を合わせた「見たことがある(計)」は85.1%となっている。

性別に見ると、「使うことがある」は女性の方が24ポイント高いが、「見たことはあるが使うことはない」は男性の方が21ポイント高くなっている。

敬意表現について

2.7 敬語はどうあるべきだと思うか (Q4)

「敬語は伝統的な美しい日本語として、豊かな表現が大切にされるべきだ」が6割台半ばに増加



〔全体・過去の調査との比較〕

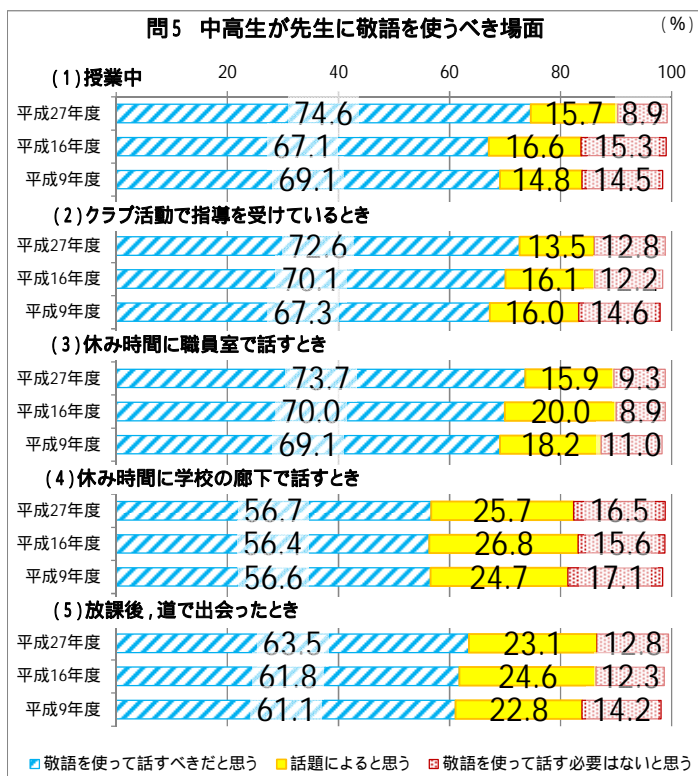
これからの時代の敬語の在り方について、「(a)新しい時代にふさわしく、敬語は簡単で分かりやすいものであるべきだ」と「(b)敬語は伝統的な美しい日本語として、豊かな表現が大切にされるべきだ」の二つの考え方のどちらに近いかを尋ねた。

「(b)敬語は伝統的な美しい日本語として、豊かな表現が大切にされるべきだ」の考え方に近い」が64.1%となっている。

過去の調査結果(平成9,16年度)と比較すると、「(b)敬語は伝統的な美しい日本語として、豊かな表現が大切にされるべきだ」の考え方に近い」は増加傾向にあり、「(a)新しい時代にふさわしく、敬語は簡単で分かりやすいものであるべきだ」の考え方に近い」は減少傾向にある。

2.8 中高生が担任の先生に対してどういった場面で敬語を使って話すべきか (Q5)

「敬語を使って話すべきだと思う」が、どの場面においても増加傾向



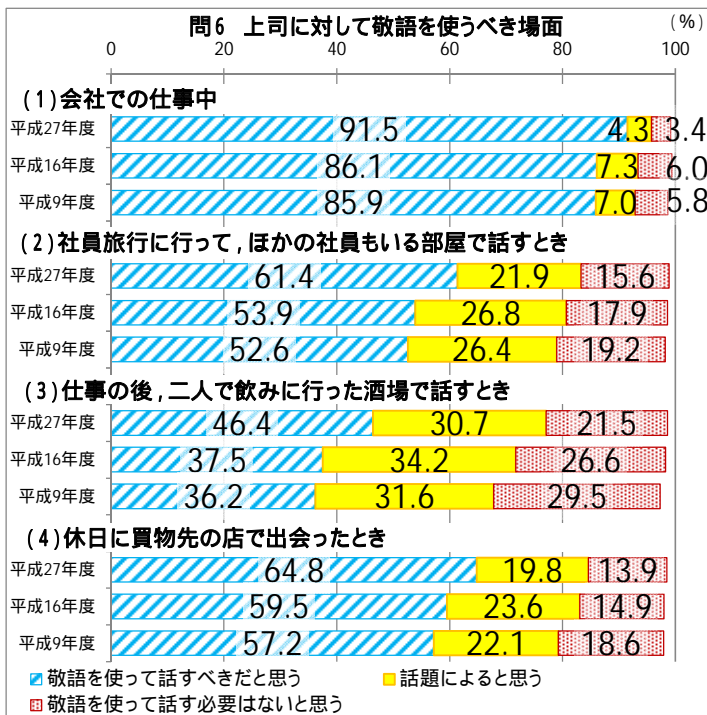
〔全体・過去の調査との比較〕

中学生や高校生が、担任の先生に対して、敬語を使って話すべきだと思うか、それとも、そうは思わないかを、五つの場面を挙げてそれぞれ尋ねた。

「敬語を使って話すべきだと思う」は、「(1)授業中」が74.6%と最も高く、次いで、「(3)休み時間に職員室で話すとき(73.7%)」「(2)クラブ活動で指導を受けているとき」(72.6%)となっている。一方、「敬語を使って話す必要はないと思う」は、「(4)休み時間に学校の廊下で話すとき」が16.5%と最も高く、次いで、「(2)クラブ活動で指導を受けているとき」「(5)放課後、道で出会ったとき」(各12.8%)となっている。

過去の調査結果(平成9,16年度)と比較すると、「敬語を使って話すべきだと思う」は、「(1)授業中」が平成16年度調査から今回調査で8ポイント増加するなど、全体として増加傾向にある。

2.9 会社に勤めている人が、上司に対してどういった場面で敬語を使って話すべきか (27Q6)
どの場面でも「敬語を使って話すべきだ」が増加



〔全体・過去の調査との比較〕

会社に勤めている人が、上司である課長に対して、敬語を使って話すべきだと思うか、それとも、そうは思わないかを、四つの場面を挙げてそれぞれ尋ねた。

「敬語を使って話すべきだと思う」は、「(1) 会社での工作中」が、91.5%と最も高く、次いで、「(4) 休日に買物先の店で出会ったとき」(64.8%)となっている。一方で、「(3) 仕事の後、二人で飲みに行った酒場で話すとき」は、46.4%と5割を下回っている。

過去の調査結果(平成9,16年度)と比較すると、「敬語を使って話すべきだと思う」は、全ての場面において増加傾向にあり、「敬語を使って話す必要はないと思う」は、全ての場面において減少傾向にある。